神田公園地区マップ

あなたのお住まいを管轄する
千代田区の出張所は・・・

神田公園出張所です！

住所 〒101-0048 神田司町二丁目2番地
電話 03-3252-7691

神田公園地区のホームページ
「大好き神田」
http://www.daisuki-kanda.com/
では、各町会の活動や行事を写真で紹介しています。
その他イベントやお祭りの情報を掲載しています。

町会	区域住所
①	神田錦町一丁目
②	神田錦町二丁目
③	神田錦町三丁目1～19までの奇数番地・20～24・26・28
④	神田錦町三丁目2～18までの偶数番地
⑤	神田小川町一丁目1～11までの奇数番地
⑥	神田小川町二丁目1・3・5
⑦	神田小川町三丁目1～11までの奇数番地
⑧	神田小川町一丁目2～10までの偶数番地
⑨	神田小川町二丁目2～14までの偶数番地
⑩	神田小川町三丁目2・4・6・24・26・28
⑪	神田小川町三丁目8～22までの偶数番地
⑫	神田美土代町、内神田一丁目2～4・12～15
⑬	内神田一丁目9～11・16～18、内神田二丁目10～12・15
⑭	神田司町二丁目
⑮	内神田二丁目8・9・13・14・16、内神田三丁目5・6・8～11・15・16・24
⑯	内神田一丁目1番5～9・12・14号　5～8、内神田二丁目1～7、内神田三丁目1～4
⑰	内神田三丁目7・12・13・14・17・18・22・23
⑱	神田多町二丁目
⑲	神田鍛冶町三丁目、内神田三丁目19～21
⑳	内神田一丁目1番1～4号

※町名に続くアラビア数字は、表示のない限り「番」または、「番地」を意味する

千代田区役所ホームページ
神田公園出張所地域

神田公園地区スポット

神田公園地区のホームページ「大好き神田」

http://www.daisuki-kanda.com/

町会名 ／ 名所	歴　史	由　来
① 錦町一丁目町会	神田錦町一丁目という町名が正式に生まれたのは、明治五年のことです。明治四十四年に神田が外され錦町一丁目と変わりますが、昭和二十二年にはまた神田錦町一丁目となり、現在に至っています。	＜錦町の由来＞ 錦町の由来は、江戸時代に一色という名の旗本が二軒あったことから「二色」と言われていた、それが「錦」となったと言われています。そのほか、京都の錦小路にあやかりたいと考え「錦」という名をつけたという説やこの近くにあった護持院に、錦のような美しい虫を祀った弁財天堂が建っていたためという説がありますが、本当のことははっきりしていません。
② 神田錦町二丁目町会 ＜名所＞ ●豊川稲荷神社	神田錦町二丁目という町名が正式に生まれたのは、明治五年のことです。明治十八年には、中央大学の前身である英吉利（イギリス）法律学校が開学しています。明治四十年に小川町で開学した電機学校（東京電機大学の前身）は昭和になってこの町内に移ってきました。武家地だったこの界隈は、明治以降、教育機関が立ち並ぶ文京の町として発展しました。明治四十四年町会から神田が外され錦町二丁目町に変更されますが、昭和二十二年に再び神田錦町二丁目となり、現在に至っています。	
③ 錦町三丁目町会 ＜名所＞ ●東京大学発祥の地 ●日本野球発祥の地 ●新島襄先生生誕之地	神田錦町三丁目の町名が正式に生まれたのは、明治五年のことです。明治時代になると、教育機関が立ち並ぶようになります。幕府の開成所の流れをくむ開成学校（のちの東京大学）や東京外国語学校（のちの東京外国語大学）、学習院がこの地にありました。明治四十四年いったん錦町三丁目と変わりますが、明治二十二年に再び神田錦町三丁目となり、現在に至っています。	
④ 錦町三丁目第一町会	神田錦町三丁目という町名が正式に誕生したのは、明治五年のことです。明治以降、この界隈は高等教育機関が集まる文教の町として発展を続けました。明治四十四年町の名前はいったん錦町三丁目と変わりますが、昭和二十二年に再び神田錦町三丁目となり、現在に至っています。昭和三十七年錦町三丁目町会から分離し錦町三丁目第一町会が創立されました。	
⑤ 小川町一丁目南部町会	明治以前は、武家地のほか雑子町や四軒町といった町が見られました。明治五年雑子町は周辺の武家地を編入し、四軒町は美土代町四丁目となります。雑子町には、正岡子規が勤めていた日本新聞社のほか、書店や印刷所、銭湯などがありました。美土代町四丁目には、新聞雑誌取次所や産婦診療院、踊指南所などがありました。関東大震災を経て昭和八年小川町一丁目が誕生しました。さらに昭和二十二年町名も、神田小川町一丁目となりました。	＜小川町の由来＞ 小川町の由来は、このあたりに清らかな小川が流れていたからとも、「小川の清水」と呼ばれる池があったからとも言われています。江戸城を築いた室町時代の武将太田道灌はその風景を「むさし野の小川の清水たえずして岸の根芹をあらひこそすれ」と詠んでいます。
⑥ 小川町二丁目南部町会	江戸時代、小川町は神田の西半分を占める広大な地域の名称でしたが、明治五年周辺の武家地を整理して東側は錦町一丁目、西側は錦町二丁目となりました。明治時代の錦町一丁目には、簿記学速記学速成教授所のほか、牛肉店や洋品店、菓子店などがありました。また、二丁目には天神真揚流柔術教授所、矯正看護婦会などがありました。昭和八年区画整理により小川町二丁目となり、さらに千代田区が成立後の昭和二十二年には神田小川町二丁目となりました。	
⑦ 小川町三丁目南部町会 ＜名所＞ ●五十稲荷神社	明治五年周囲の武家地を整理して表神保町となり、町内には、勧工場（百貨店の前身）で時計塔としても知られた南明館、大弓場や寄席などがあり、東京を代表する繁華街でした。昭和八年小川町三丁目となり、昭和二十二年には神田小川町三丁目となりました。	
⑧ 小川町北部一丁目町会	明治五年周辺の武家地を整理して、西側は小川町、東側は淡路町一丁目となりました。この界隈は、鍛冶屋稲荷神社（現在は幸徳稲荷神社と改称し、小川町二丁目に遷座）のほか、西洋料理店やビリヤード場、学校、印刷所などが立ち並び、東京を代表する繁華街として栄えました。昭和八年小川町一丁目となり、昭和二十二年には神田小川町一丁目となりました。	
⑨ 小川町北部二丁目町会 ＜名所＞ ●幸徳稲荷神社	明治五年周辺の武家地を整理して小川町となりました。町内には東京物理学校、私立鳥海女学校、東京顕微鏡院など、学校や病院がありました。東京物理学校は現在の東京理科大学の前身で、夏目漱石の小説「坊ちゃん」の主人公が学んだ学校です。また、現在ビルの２階に祀られている、幸徳稲荷神社は、稲葉家の屋敷神として祀られていたもので、当時は鍛冶屋稲荷と称し、五穀豊穣と武運長久を祈願された由緒ある社です。昭和八年小川町二丁目になり、昭和二十二年神田小川町二丁目となりました。	
⑩ 小川町北三町会	明治五年周辺の武家地を整理して小川町となりました。明治時代の町内には、牛肉鳥肉料理や割烹料理店、小間物店、洋傘店などがありました。昭和三十年台頃から学生や若者の趣味を反映して大型のスポーツ用品店が数多く出店し、スポーツ店街としても賑わっています。昭和八年小川町三丁目となり、昭和二十二年神田小川町三丁目となりました。	

町会名 ／ 名所	歴　史	由　来
⑪ 小川町三丁目西町会	明治五年周辺の武家地を整理し、富士見坂を境に北側は猿楽町一丁目、南側は小川町となりました。明治時代の猿楽町一丁目には、英語、漢学、数学などを教える研精義塾、裁縫を教える裁縫正鵠女学校や婚姻媒介所などがありました。小川町には、西洋料理店やビリヤード場、小川町警察署などがあり、学生たちで賑わう街でした、また、町内に過ごした昭和初期の小説家永井龍男は、文芸春秋社で雑誌編集長を務めたのち、後年には文化勲章を受章しています。昭和八年小川町三丁目となり、昭和二十二年神田小川町三丁目となりました。	
⑫ 内神田美土代町会	明治の初期の美土代町は、一～四丁目まである広大な町域を持っていましたが、時代が下がるにしたがって、その範囲を縮小していきます。現在の神田美土代町が誕生したのは昭和二十二年のことでした。	＜美土代町の由来＞ 明治五年かつて、この周辺には伊勢神宮に捧げるための稲（初穂）を育てる水田「みとしろ」があった故事にちなんで生まれた名前でした。
⑬ 司町一丁目町会	明治六年までに、この界隈は三河町二丁目、皆川町、神田蝋燭町、旭町に再編され、昭和十年四つの町が合併して「司一丁目」が誕生しました。昭和二十二年に神田司町一丁目となり、昭和四十一年に内神田一丁目の一部と内神田二丁目の一部となり、現在に至っています。町名は「内神田」に代わりましたが、住民組織である町会では「司」の名前を引き継ぎ「司町一丁目町会」として存続しています。	＜司町の由来＞ 明治五年江戸の総鎮守として親しまれる神田神社の平田盛胤宮司の命名によるもので「司」が「者の頭領なれば、未来永劫栄ゆること疑いなし」という意味を持つことから名付けられました。
⑭ 司町二丁目町会	かつてこの界隈は、おもに商人や職人が住む町として発展してきました。昭和十年司町二丁目は司町一丁目とともに誕生しました。昭和二十二年神田司町二丁目となり、その町名は現在も引き継がれ、永く人々に親しまれています。	
⑮ 内神田旭町々会 ＜名所＞ ●佐竹稲荷神社	明治二年、このあたりが慶長九年から七十数年にわたり、佐竹藩の江戸上屋敷だったという縁で、「五本骨の扇に月」の佐竹家の家紋が由来ですが、「月」が「日輪」に変わり「旭」という町名が発想されたようです。昭和四十一年に内神田二丁目と三丁目の一部となり、旭町の名前は地図から消えてしまいましたが、昔を語り継ぐように町会の名前として今でも存続しています。	
⑯ 内神田鎌倉町会 ＜名所＞ ●御宿稲荷神社 ●出世不動尊	昭和十年「三河町一丁目・鎌倉町・鎌倉河岸町・松下町・千代田町・東今川町」の六ヶ町を統合して「鎌倉町」が成立した。町会としては、昭和十八年に「鎌倉町西部町会」を合併して「鎌倉町町会」として発足したが、昭和四十一年住居表示の実施に伴い「内神田鎌倉町会」と改称し現在に至っています。	＜鎌倉町の由来＞ 天正十八年（1590）家康が入国する前この辺りは武蔵国豊島郡神田村で、平川が日比谷への流れる畔りであった。御宿稲荷は、将門塚にほど近い郷士の館にあった祠で家康が一夜の宿をとった足跡を記念して社地を寄進されたと伝えられています。家康入場の頃から、この付近の河岸には多くの材木・石材が相模国（現在の神奈川県）から運び込まれ、鎌倉から来た材木商たちが築城に使う建築部材を取り仕切っていました。そのため荷揚げ場が「鎌倉河岸」と呼ばれそれに隣接する町が鎌倉町と名付けられ、江戸城築城、江戸八百八町の町作りはここから始まったという意味で江戸古町と云われます。
⑰ 多町一丁目町会 ＜名所＞ ●大柳稲荷 ●神田下水	江戸時代この界隈には神田竪大工町や新石町一丁目といった町がありました。二つの町はそれぞれ竪大工町、新石町と改名しながらも、昭和初期まで存続していましたが、昭和八年新たに多町一丁目となり、町会を結成し、また一部は鍛冶二丁目に編入されました。昭和四十一年に内神田三丁目と変わり、現在に至っています。	＜多町の由来＞ 寛永年間以前に成立した町を江戸古町といい、神田には二十二の古町がありました。慶長十一年に起立した「田町」も江戸古町の一つであり、神田で三番目にできた町です。現在の町名表記は「多町」ですが、町ができた当時は「田町」でした。神田はもともと低湿地帯で、「田町」も田を埋め立ててできた町と考えられます。
⑱ 多町二丁目町会 ＜名所＞ ●松尾神社 ●文化庁登録有形文化財「伊勢屋・松本家」 ●一八稲荷	慶長の頃、田町一丁目にできた青物（野菜）市は、後に大きく発展し、江戸幕府御用市場となり、市場の繁栄と町の賑わいとともに、町名も「多町」へと変わりました。昭和八年には三百三十年続いた（旧）多町一丁目と（旧）多町二丁目が合併してできた町会が、現在の多町二丁目町会です。	
⑲ 神田鍛冶三会町会	JR 神田駅周辺には、「鍛冶」という名を冠する町名が三つ存在します。そのうち鍛冶町一丁目と鍛冶町二丁目は、江戸時代から「鍛冶」が付く町名でしたが、鍛冶町三丁目は「鍋町」と呼ばれた町でした。この界隈が鍋町と呼ばれていた理由は、江戸幕府の御用鋳物師をつとめていた、椎名山城が屋敷を構えていたためと伝えられています。鋳物師とは、鍋や釜を作る職人のことです。他に御腰物金具師や御印判師なども住んでいました。昭和八年鍋町は鍛冶町三丁目と改称されました。	
⑳ 神田橋町会	神田橋は、上野寛永寺や日光東照宮への御成道であったため、明治の頃には建造物はありませんでした。明治五年にいったん美土代町になりますが、昭和四十一年内神田一丁目に編入されました。昭和五十八年区営内神田住宅が建設され、平成五年に内神田住宅町会が発足し、その後平成十六年に神田橋町会と改名しました。	